

# 総務文教委員会記録

令和3年9月14日（火）

12時46分～13時30分

全員協議会室

- 【委員】 西村委員長、芦谷副委員長  
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】 下間書記
- 

## 【議題】

- 1 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて【総務文教委員会分】  
(委員間で協議)

2 その他

【議事の経過】

[ 12 時 46 分 開議 ]

西村委員長

ただいまから、総務文教委員会を開会する。議題は前回に引き続き、はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）における発表者の意見に対する回答である。

1. はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて【総務文教委員会分】

（委員間で協議）

西村委員長

まず4番「誰もが安全で安心できる暮らしについて」の対応だが、これは対応（案）の4行目「今後、後者に」という、要するに市の検討会を「今後、関係機関に」というほうがよいという意見だったので直した。それが4番に対する回答案である。

6番「ゴミステーションのありかた」に対する回答案ということで、一応これはほぼ全面的にやりかえているので読み上げる。

（以下、資料を読み上げ）

というように変えた。これでとりあえず意見を。まとめた回答にはしているのだが。

三浦委員

マップの作成に対しては委員会の中では、あまり必要性を感じないという見解だったと思うが、山根さんの意図をいま一度確認して、それで返答を検討するという理解でいたのだが。

西村委員長

そういえばここで、それを表明してない。結果を言っていない。一応、前に電話をかけて聞いてみた。それで、彼女が描いているイメージがどのようなものかということ、ハザードマップのように市内全域が網羅された形で、地図にごみステーションを表示して、なおかつ巻末になると思うが、一覧表で、例えばナンバー1のごみステーションは、何町の1町内が管理しているというような一覧表があって、地図との対比ができるようなものをイメージして、だから自分がどこの町内かというのがごみステーションマップを照合して確認するといったようなものであった。私などが心配していた、例えば、山根さんはそのマップで、自分が住んでいる町内のごみステーション以外にも、どこにも捨ててよいのだと誤解されているのではないかとということも率直に聞いたが、どうもそれはご両親の会話などで、どこでもよいわけではないという認識は持っておられたようなので。それなら不要なのかなという思いは私もないことはないのだが、そこまで突っ込むといけないかと思い、それほど突っ込むでは聞かなかった。

ただ、イメージと、どういうときに使うのかといえば、やはり想像どおりの、転居時などに便利ではないかということだったので、それはそれで受けとめて電話を切った。そういうことだった。

だから私の意識の上では一覧表がポイントになった。

西川委員

マップについては結局、山根さんが想定している、転居したときというのは、実際は転居したら窓口で教えてくれるので必要はないという、実際そうだと思う。そういうことは山根さんにはお伝えされたのか。

西村委員長

私としてはある程度、ごみステーションの管理というか、捨てるごみ

ステーションは決まっているので、マップをつくることの意義はそれほど、こちらとしては感じないということの意味はお伝えした。ぼんやりであるが。意味ないじゃないかというような言い方ではなく。ぼんやりとお伝えはしたつもりではある。ただ、否定するような言い方はしなかったつもりである。これについてあえて書くのであれば、マップの作成については担当課に伝えるという程度にしか書けないのかと思っている。

西田委員

山根さんはマップについては、やんわり必要性はそれほどないということで、そのニュアンスに対してある程度、一定のご理解はされたのか。

西村委員長

理解はされたとは思いますが、ただ、結論的には山根さんの最終的な意思も明確には私には伝わってこなかった。そのように私も感じてはいる。

西田委員

それなら、先ほど少し言われたが、マップについては執行部に伝えるというような言い方でつけ加えられるか、それとも今ここにもうある、ご提言いただいた意義や効果については、理解できることから前向きに、改善に向けて検討、委員会としてそういう働きかけをするということで、その辺で、もうこれでよいのかなという気がするが。

西村委員長

ただ、三浦委員も言われたように、文書上読むとマップについては触れられてないという印象を持たれるのも確かかなという気はしている。

牛尾委員

マップについてもやはり1行か2行くらい触れられたらどうか。それについては執行部へ検討方をお伝えするくらい。今後これから市民一日議会はずっと、そこそこやっていくのだとしたら、一言一句全部丁寧に答えるのがベストなのか、それとも7掛けで答えるのがよいのかという、その辺は割り切らないと大変なことになってしまうので。そういう言い方は大変申しわけないのだが。そういう姿勢でやらないと、5万2千人の市民全員が市民一日議会に来られたらどうなるかとなるので、そこそこちゃんと答えるのがよいのでは。

西村委員長

時間がたつばかりなので。マップは、マップで一言つけ加えたほうがよいと思われる方が多いのであればそのようにする。先ほど私や牛尾委員が言われたような文面に、多分なると思うが。

牛尾委員

彼女にとっては、マップはそこそこの提案だったと思う。だからそれに触れないと失礼だと思うので、触れられたほうがよいと思う。

三浦委員

ごみステーションの材質、形状の統一の部分。後段のところだが。ごみステーションの実際の設置などになってくると環境課ももちろん入ってくる話で、総務文教委員会の所管なのかが少し微妙になってくるので、前段のところ補助金申請窓口設置後に環境面・管理面の、というところで、それぞれ連携ができてないことが認識共有されて、それについては認識を共有しながら、きちんとごみステーションの設置について関係各所で連携して指導するように、委員会から伝えたと思うので、そこでとどめて、加えてマップについては、牛尾委員がおっしゃった部分で、委員会の総意としてコメントをつけ加えるような返答でよいのではないかと。

踏み込むと福祉環境委員会の所管に入っていくような感じがするので。あくまで総務文教委員会として、まちづくりの観点からのごみステーションのあり方みたいところを指摘したというところで返答したらどうかと思う。

西村委員長  
三浦委員

マップについては上の3行に引っかけるということか。  
補助金申請の窓口のセクションと、環境面の側面から指導するセクションの連携がうまくできてないことが明らかになったので、そこをきちんと連携してごみステーションの設置を行ってくれと、当委員会から指摘したということがまず一つ。ここで一つ今回の提言を受けて、委員会の指摘がもう終わっていると思う。執行部はそれに対して対応すると答弁した。それで一つ。

西村委員長

もう一つはマップの制作についても、今、転居された方々への指導はこういうやり方でやっているの、全体的な把握というよりも個別の指導をしっかりとすることを再確認したということでお戻しするというので、十分丁寧な返答になるのではと私は思う。

牛尾委員

だから後段を、三浦委員のマップの表現に変えるということによいか。私も、かなり環境課の管轄に踏み込んだ表現になっていると少し気になっていた。

西村委員長

丁寧な答弁なのだが、環境課がお答えになればよいような答弁なので、そこはさらっと流してもよいのではないかというのが一方で、ただ向こうからしたら、総務文教委員会か福祉環境委員会かではなく、市に質問を投げたわけだから、これをもう少しはしょって書いてもそれはそれでよいのではないだろうか。市民には、それがうちの担当ではないというところまでは理解できないだろうから。答えていけないことはないと思うが。あとは市民一日議会の所管委員会が、この辺までの答弁にしようとしてマニュアルをつくっていただければ、ここまで答える必要はないとかそういうことになるのだが、皆はどうだろうか。

西田委員

ごみステーションを統一する部分の表現は難しい。踏み込んではいけないし。越権行為と言われればそれまで。ただ、そこを飛ばすと、統一の問題が非常に大きな柱だから、それをぼんやりした形で返すのもどうかと非常に悩みどころである。

西村委員長

越権もなにもない。山根さんの気持ちに素直に総合的に、この委員会に付託されたので、この委員会で考えて総合的に答えてあげたら、私はそれでよいと思う。

牛尾委員  
上野委員

結論を言っているわけではない。それではどうか、中を取るようになるが、先ほど三浦委員が最初に、マップの前段で言った、いわゆる担当課が補助金申請窓口と、環境課の環境面・管理面との指導の関係で連携が十分でないことについて、十分連携を取りながらやっていくことを確認したということと併せて、マップについても連携のもとに対応していくようにと、そういう対応にしたということで。後段はどうだろう、私としてはこのままだでもよい気がしているのだが。

西村委員長

このままでよい。  
よい文章ができています。僕が思うのは下から2行目の「担当課においてごみステーションマップの必要性も含め、検討するよう当委員会から働きかける」みたいなのはどうか。

流れからしたら最後にマップは持ってくる。担当課において。マップについても対応するよう当委員会として働きかけるということでもまとめようにする。

三浦委員

働きかけるのか。そこは働きかけるにしておくで、その後、委員会としてどう扱っていくのかとなるので、その文言は気をつけたほうがよいかと。

西村委員長

マップについては最後の2行目のところに、マップについても、と、誤解を生まないような表現にして検討するよという意味合いだけにして表現を変えていきたい。改善に向けという表現を取る。要するに対応について考えてくれということ。こういう趣旨でご意見をいただいたので。私は別に、検討してもらってよいと思う。

牛尾委員

実際、マップの必要性は、この委員会のメンバーはそれほど感じてないわけだから、そこでそのようなリップサービスをする必要はないと思うのだが。そこははっきり、だめなものはだめと答えたほうが向こうもわかりやすいのでは。何か期待感を持たせるよりも。

三浦委員

私も牛尾委員のご意見に近い。例えば、マップ制作のご提案について趣旨は理解すると。先ほど委員長からもお話があったように。一見してわかりやすくどこにごみステーションがあるかがわかりやすく伝わるほうがよいというのが提案者の意図だと思う。したがって趣旨は理解すると。

ただ現在、転居されてこられた方々には個別に窓口等で地図などを使って、最寄りのごみステーションはここだご案内がされている現状があるので、全市的な情報提供の必要性は低いのではという判断で、今回は執行部とそういう情報共有にとどめたというような形で戻せば、しっかり提案に対しては我々も現状を確認しながら、それに対してどのようなことがよいのかを考えたという姿勢が伝わればよいのではと思うのだが。

少なくとも私は今、全市的なマップの必要性というのは、執行部に検討を求める立場にはない。

西村委員長

要するにマップについてはある程度、明確に書いたほうがよいと。そういうことか。結論は。だから対応を求めるといような意味合いは避けたほうがよいというのが結論か。

では下段の中にそのことを入れ込んで、対応を求めるといような表現ではなく、趣旨は理解するが現状を見る限り、マップ作成の必要性はないといのか、感じないといのか、そういう表現を加えるといことで仕上げたいと思うが、それでよろしいか。

( 「はい」という声あり )

8番「浜田市の新しい学習スペース」について。これも申しわけないが中途半端で終わっている。提案内容は一応読み上げる。

( 以下、資料を読み上げ )

私が悩んだのは、これは提案内容なので多分表に出ることは想定されているか、されてないかわからないが、学力の問題である。学力が上がるし、みたいな内容を、田中さんは文面にお書きになっているので、そのことを上げたほうがよいか悩んだ。対応案はまだ検討途中なので不十分なのだが、一応趣旨だけは説明したい。

( 以下、資料を読み上げ )

このような表現を考えていた。

一つはまず、牛尾委員の意見だったように記憶しているが、まず高校の

施設で考えてほしいという意見をこの中に取り入れることと、まずその前段としてニーズがどの程度あるのかを入れておかないといけないというのが①の趣旨である。

②の趣旨は、公共施設を中心に民間の可能性もあるかもしれないが、既存施設をこういった学習スペースとして活用できないかということで、そういう視点で可能性についてとことん追求してみる。そのような方向で教育委員会等の担当課にお願いする。そういう二つの方向性を対応案として考えているのだが、まだ不十分なのでできれば皆で枝葉をつけて完成させてほしい。

牛尾委員

駅周辺の既存の公共施設ということだが、考えても有効利用できるような気はするが。文言とすればそれはよいが、実際どこがあるか。例えば文化ホールを使うわけにいかないだろうし、ほかに。例えば浜田高校から駅に向けてのラインからすれば、そこにあるような施設はない。実際あのルートを描いて、どこか行政が手を入れるとする場所があればよいけど、あのラインからいけば全くないので。

西村委員長

多分そういう状況にあるからということで、西川委員と一緒に陳情された方は、オリンピアビルの提案をされたのだろうとは思う。

牛尾委員

駅周辺の施設はわかるが、既存の公共施設と入れると難しくなるのではないかと。そういう施設は現存してないので。

西村委員長

要するに、そこは深い考えがあるわけではなく、例えば石見まちづくりセンターや石中央文化ホールに、検討してみてその可能性がないのであればそれはないように、ほかを考えるしかないだけだから。最初から民間施設なりあるいは新たに。

牛尾委員

江津のパレット的なものをイメージしているのだろう。なぜなら汽車通学にしてもバス通学にしても駅周辺で待っている間に少しでもそういうことができるといふ、そういう場所を求めているのだろうから、少し外れたところでそういうものを設けても、そこへ行くとは限らない気がするのだが。

西村委員長

それは私もそう思う。この間山陰中央新報では、大学が図書館を学生にも広げるといふ記事が結構大きく載っていたが。

三浦委員

そういったことを今後調査研究していくということで戻してよいのではないか。実態調査も、ここに委員長が書いてくださっているように、今の高校生たちにニーズをしっかりと聞いてみたりしていかないと、委員会としてもなかなか執行部に交渉したり、要望を働きかけていくのは難しいのではと思う。まずは実態調査の必要性もあるし、その中でどういうやり方が最適なのかを調査研究して、市に当該委員会から伝えていく、なので趣旨は十分理解した。今後調査研究していきたいと思う、ということで、しっかりとやっていく姿勢をお戻ししたらよいのでは。いろいろなアイデアが出てきそうなので、時間が多分すごくかかっていく感じがする。

西村委員長

それは一つ一つどれを取ったって手間のかかることだし、ニーズ調査は高校を動かさないとどうにもならない話だし。ただそれは実際に、この委員会の話し合いの中で出てきた話で、ニーズ調査については教育委員会の誰だったか、課長が高校に働きかけるようなことを方向づけるよ

うな答弁もしている。あそこまで回答しているものを私も、全く表に出さずにおくのもどうかというような思いも、ないことはない。

それは先ほど牛尾委員や三浦委員が言われたような形にすれば、非常に。

牛尾委員

三浦委員が言ったようなところでよいのではないだろうか。もう少し言うと、先日浜田高校の同窓会では、今後在校生のレベルを上げるためにOBに呼びかけてお金を集めて優れた教育をするというようなことをやるという話が立ち上がったばかりなので。浜田高校も含めてOBのそういうことを考えているので、違う展開になるかもしれない。浜田高校生に関しては。

だからあまり難しく考えず、三浦委員が言われたようなことで返してよいのでは。それでおこう。

西村委員長  
三浦委員

そういうぼんやりしたものでよいのか。

この委員会で、現状をきちんと踏まえて、どういう場所を設けて言ったらよいかとか、そういったことを調査研究していくという、今後の姿勢なので、逆にここで結論を出す必要は別にないと思うし、むしろ短時間で出せるものでもないで、今後それを出していくと伝えるのでよいのでは。むしろそうして取り上げてくれるのだという姿勢が彼女に伝われば、非常によかったのではと思うのだがどうか。

西村委員長

私は皆の総意に従って書くだけだから。要するに、ここまで具体的に書く必要はないということではどうか。それを、要するにこれを、積極的な意思を持ってこれを検討していくというようなことが伝わるような文章にしていくということで、今日のところは置かせていただく。もう1回。多分読むだけならすぐ読めると思うので、皆に読んでいただく形で、予算決算委員会が開かれている間に、またお見せする形にしたいので、お願いします。

## 2. その他

西村委員長

それと、牛尾委員から提案のあった件だが。大分時間がたったので、覚えているだろうか。あの件についても再度、終わるまでに結論を出したい。よろしくお願いします。

以上で委員会を閉じたい。

[ 13 時 30 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟